



小野塚 知二 (ONOZUKA Tomoji)

東京大学大学院経済学研究科 教授
経済学図書館長
東京大学アジア研究図書館長
東京大学経済学部卒業、
同大学院経済学研究科博士課程単位取得。
博士(経済学)。

東京大学社会科学研究所助手、横浜市立大学商学部専任講師、同大学商学部助教授、東京大学大学院経済学研究科助教授を経て 2001 年から現職。政治経済学・経済史学会理事・研究委員、同学会賞選考委員、社会経済史学会常任理事・情報化委員長、社会政策学会査読専門委員。

その間、連合王国ウォリック大学社会史研究センター客員研究員、横浜国立大学経営学部非常勤講師(労働経済)、連合王国ウェイルズ大学カーディフ・ビジネス・スクール客員研究員、成蹊大学文学部非常勤講師(イギリス文化史、同演習)、横浜国立大学経営学部兼任(国際経営史)、横浜市立大学大学院経済学研究科非常勤講師(経済学特殊問題研究)、イタリア共和国サッサリ大学客員講師、東北大学大学院経済学研究科兼任(近代イギリス経済史)、新潟大学人文学部兼任(イギリス社会史)、日本紅茶協会ティーインストラクター講座講師(イギリス食文化史)、東京都立大学非常勤講師(経営史)、フェリス女学院大学非常勤講師(経済史)、横浜市立大学非常勤講師(音楽社会史)、神奈川大学非常勤講師(イギリス食文化史)など。

主な研究テーマは、近現代イギリス社会経済史とイギリス労務管理史・労使関係史で、そのほかに、機械産業史、音楽社会史、食文化史、兵器産業・武器移転史、ヨーロッパ統合史、などの諸分野でも仕事をしている。

主な著書に、『経済史 —いまを知り、未来を生きるために』(有斐閣)、『大塚久雄から資本主義と共同体を考える』(梅津順一と共編著、日本経済評論社)、『第一次世界大戦開戦原因の再検討 —国際分業と民衆心理』(岩波書店)、『労務管理の生成と終焉』(榎一江と共編著、日本経済評論社)、『軍拡と武器移転の世界史 —兵器はなぜ容易に広まったのか—』(横井勝彦と共編著、日本経済評論社)、『自由と公共性 —介入的自由主義とその思想的起点—』(日本経済評論社)、『大塚久雄「共同体の基礎理論」を読み直す』(沼尻晃伸と共編著、日本経済評論社)、『日英兵器産業とジューメンズ事件 —武器移転の国際経済史—』(奈倉文二・横井勝彦と共著、日本経済評論社)、『西洋経済史学』(馬場哲と共編、東京大学出版会)、『クラブ的規制の起源 —19 世紀イギリス機械産業—』(有斐閣、[第 8 回(2001 年)社会政策学会奨励賞受賞]、など他多数。その他、論文、書評、学会報告など多数。